# EU Indicators

## 欧州経済指標コメント：4-6月期ユーロ圏ＧＤＰ改定値

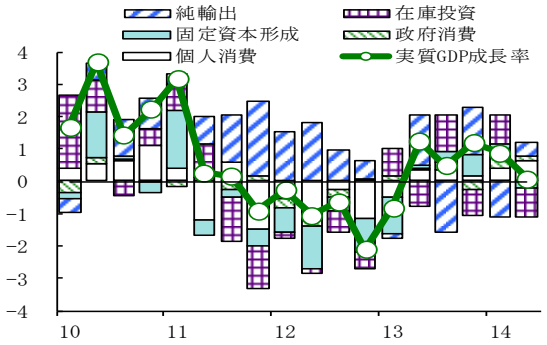
発表日：2014年9月5日(金)

～待ち人（反動増とユーロ安効果）来たらず～

第一生命経済研究所　経済調査部
主席エコノミスト　田中　理
03-5221-4527

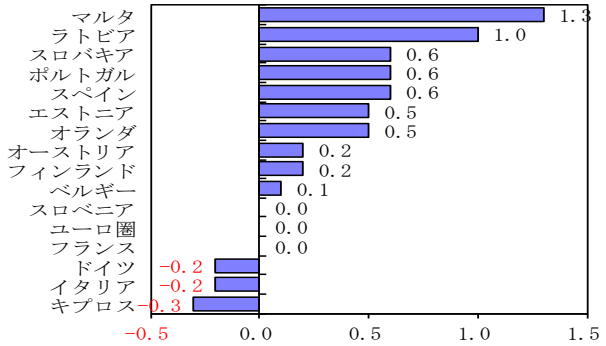
- 4-6月期のユーロ圏の実質ＧＤＰ成長率の改定値は前期比ゼロ％と速報値から不変。前期比年率値では＋0.1％と速報段階（＋0.2％）から僅かに下方修正された。確報で追加・修正された国は、マルタ（同＋1.3％）、スロベニア（同ゼロ％）、フィンランド（速報：同＋0.1％→確報：同＋0.2％）で、大勢に影響はない。既報の通り、スペイン（同＋0.6％）の成長が加速したほか、前期に大きく落ち込んだオランダ（同＋0.5％）とポルトガル（同＋0.6％）が持ち直し、フランスが２四半期連続のゼロ成長、ドイツ（同▲0.2％）がマイナス成長に転落、イタリア（同▲0.2％）が再び景気後退に陥った。
- 需要項目別の内訳は、個人消費（同＋0.3％）が５四半期連続、政府消費（同＋0.2％）が２四半期連続で増加した一方、設備投資（同▲0.3％）が５四半期振りに減少、在庫投資の寄与度が大幅なマイナスに、輸出入がともに増加し外需寄与度はゼロにとどまった。建設投資を中心に暖冬で盛り上がった前期の反動減が響いた。また、５月の鉱工業生産が各国揃って大幅に落ち込み、６月に持ち直していることから、飛び石連休による生産ラインの休止が季節調整で十分に除去できていない可能性がある。
- 7-9月期入り後の景気は、マインド統計が全般に低下基調にあり、緩やかな成長にとどまる見通し。4-6月期を下押しした特殊要因の剥落で7-9月期の成長率は実勢以上に反発する筈だが、景況悪化が重石となり、緩やかな回復ペースにとどまろう。ユーロ安転換の効果が現れるのはもう少し時間が掛かる。

■ユーロ圏：実質GDP成長率（前期比年率、％）




出所：Eurostat

■2014年4-6月期の実質GDP成長率（前期比、％）




出所：Eurostat

■ユーロ圏ＧＤＰ（前期比年率＜％＞、括弧内は寄与度＜％ポイント＞）

| | 名目ＧＤＰ | 実質ＧＤＰ | 内需 | | | | | 外需 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 個人消費 | 政府支出 | 固定資本投資 | 在庫 | | 輸出 | 輸入 |
| 12/7-9月期 | 0.5 | ▲ 0.6 | (▲ 1.6) | ▲ 0.5 | ▲ 1.0 | ▲ 2.3 | (▲ 0.7) | (1.0) | 2.9 | 0.8 |
| 12/10-12月期 | ▲ 0.5 | ▲ 2.1 | (▲ 2.6) | ▲ 2.1 | 0.3 | ▲ 5.5 | (▲ 0.5) | (0.5) | ▲ 2.4 | ▲ 3.9 |
| 13/1-3月期 | 1.6 | ▲ 0.8 | (▲ 0.7) | ▲ 0.9 | 0.7 | ▲ 6.2 | (0.8) | (▲ 0.1) | ▲ 3.0 | ▲ 3.0 |
| 13/4-6月期 | 2.6 | 1.2 | (▲ 0.3) | 0.6 | 0.1 | 0.5 | (▲ 0.8) | (1.6) | 9.4 | 6.5 |
| 13/7-9月期 | 0.9 | 0.5 | (2.1) | 0.6 | 1.1 | 1.9 | (1.1) | (▲ 1.6) | 0.5 | 4.4 |
| 13/10-12月期 | 1.6 | 1.2 | (▲ 0.3) | 0.3 | ▲ 1.3 | 3.8 | (▲ 0.8) | 1.5 | 5.6 | 2.6 |
| 14/1-3月期 | 2.4 | 0.9 | (2.0) | 0.7 | 2.8 | 0.9 | (0.9) | ▲ 1.1 | 0.3 | 3.1 |
| 14/4-6月期 | 0.7 | 0.1 | (▲ 0.3) | 1.2 | 0.6 | ▲ 1.3 | (▲ 0.9) | 0.4 | 1.8 | 1.0 |

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。